

令和3年度 第1回地方創生推進会議 要録

日 時：令和3年4月8日（木） 18：30～20：10

場 所：郡上市役所4階 大会議室

出席者：（委員）井俣 潤、小池 敏、出崎善久、兼山吉枝、小倉 誠、山内正文、稲葉光紀
粥川和雄

（事務局）河合市長公室付部長、永瀬課長、前田

欠席者：青木副市長、松山誠美、佐藤まり

傍聴者：なし

会議要録

（開始 18時30分）

1. 開会

（永瀬課長により開会）

2. 委員委嘱

関公共職業安定所岐阜八幡出張所選出委員：小倉委員

郡上市社会福祉協議会選出委員：粥川委員

3. 挨拶

井俣会長より挨拶

河合室付部長より挨拶

4. 協議事項

（進行を井俣会長に交代）

- ・第2期郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定案（基本目標1、2）について

（説明）

事務局①：（事前に送付した資料をもとに説明）

第2期総合戦略について、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み改正を予定している。最初に基本目標「産業振興・雇用の充実」の改定案について説明をし、意見を頂いた。

（意見等）

委 員①：ご意見やご質問はないか。

委員③：コロナの影響で一寸先が見えず、国の政策に振り回されていると感じており、なにか1つ信念を持った郡上らしいモデルを確立していくことでこの先の産業振興や雇用の充実を図ってほしい。

今回提示された改定案は、社会情勢をうまく反映させている。ただ、戦略1-1において「地域資源を活かしたマイクロツーリズムの推進」とあるが、地域資源を具体的に絞り込んでイメージが沸くものにしたら分かりやすいと思う。また「郡上の特性を活かしたワーケーションの推進」とあるが、郡上の特性とは何かと考える。総合戦略としてこのような記載で良いと考えるがパブリックコメントを行う際に市民に理解していただけるか心配である。

戦略のタイトルに「ブランド観光地化」とあるが、観光業を行っていて、ブランド化に疑問を感じる時もある。ブランド化することで例えば鮎など値段が上がり、地元の人が消費できない現実がある。地元の人がその土地のものを適正な価格で食べてもらい、自らが自慢でき、情報発信するような形が理想であり、地元の人が消費しないものは外には売っていけないと考える。

現在、都会の人は地元の人もなかなか知らないディープなものを求めており、そのような旅のスタイルが求められている。マイクロツーリズムやワーケーション、体験通年型コンテンツなどを強化していくと今後面白いと考える。また体験の中に地元の人との交流を増やし、その土地の人と触れ合うことも重要である。総合戦略の改定案はこのような形で良いと考えるが、具体的にどこまで説明していくのか、違う形での情報発信も必要ではと思う。

委員①：白鳥の地域協議会で地元を知るような活動を行っている。例えば長滝白山神社で観光ガイドを地元の人が務めるなどをしており、これをきっかけとして改めて地域の魅力を知り、観光を盛り上げていくこともできる。コロナ禍の時期だからこそ改めて地元を知る良い機会なのかもしれない。このタイミングでしかできないことをやっておくことが重要と考える。

委員②：コロナについて第4波の状況にもよるが、景気の回復は7月～9月頃ではないかとみている。金融機関においてコロナ禍の特別な借入れを用意しているが、コロナが落ち着いた時期には借入金の返済のタイミングとなっていく。そのタイミングで各種事業者のコンサルティングや販路拡大を考えていくのが金融機関の仕事と考えている。そのような意味では、戦略1-2に記載されているが、事業を継承していくことも大事であるが、今回追記されている事業を継続していくことが非常に大事である。また都市部ではテレワークが非常に多くなっており、そのような状況下で郡上へ魅力を感じてもらえるような取り組みができると良い。どこでも仕事ができる時代であるため、サテライトオフィスの誘致も取り組みとしては重要である。

委員④：地元の人に地域を知ってもらう事が非常に大事だと感じている。地域の細かいことを知っていて説明でき、アピールしていける人材が求められている。

戦略 1-5 の「スポーツツーリズムの推進」についてであるが、和良地域にはインドアで3面のコートがあり、東海地区ではかなり貴重な施設である。施設の予約も電話で高齢者が対応するのではなく、施策にあるとおり予約に対応するワンストップシステムの構築は早く実現、機能していただけるとありがたい。白鳥地域にも立派なコートがある。

戦略 1-3 「持続可能な農業経営と集落の維持」については、地元の農産物を市内で消費するような取り組みや場所づくりが大切であると考えている。

委員⑨：意見というよりも知っている情報を共有させていただく。ケーブルテレビでアンケートを取ったところ、市内事業者でテレワークが2%、リモート会議は5%アップしたという現状ではあるが、特に変化がないという回答が40%であった。テレビやインターネットの利用時間が増えたという傾向はあるが、都市部とは違いコロナによる大きな変化は市内では起きていない。

観光業について、さくらももこさんは八幡町が観光地という面を前面に押し出しておらず、普段の生活が垣間見れるところに惹かれたと言っていた。発信下手なのかもしれないが、高山のように観光地化を極端に行っていない。このような現状を維持していくことも重要であり、訪れて楽しいだけではなく、知らないところに行き、観光地を自分で見つけるという点に魅力を感じる人もいる。デジタルマーケティングで今の状況を把握するのは大切であるが、時代がどんどん変化する中で柔軟な考え方も大切だと感じている。

委員③：市民向けにケーブルテレビを利用して、全く知られていない場所を紹介する番組も面白いかもしれない。地域の人にも有名な場所は知っているが、郡上の人にも知らない場所をケーブルテレビを通して旅ができる番組は新たな発見にもつながると思う。

委員⑨：番組審議会でも郡上の山登り番組の話が話題として出ていた。知らない場所を知る機会や体験できない人が見るような番組も面白いと考える。

委員⑩：コロナの影響により収入が減少している人はまだまだたくさんいる。このような影響を受けた人への雇用対策でもあってほしいと思う。また、通常の生活ができる方への施策が前提になると思われるが、郡上では難しいかもしれないが、障害を持った方との農副連携など障害者にも目を向けた施策であってほしいと思う。

委員①：それでは基本目標「定住・交流・移住の推進」について事務局より説明をお願いする。

事務局①：「定住・交流・移住の推進」の改定案について説明をし、意見を頂いた。

委員①：ご意見やご質問はないか。

委員①：地方創生推進会議での意見が少ないと感じるが理由があったのか。

事務局①：都市部の住民に地方へ関心を持ってもらう施策が多いため、コロナに影響をされる施策が少ない。そのため地方創生推進会議としての意見も少なかったと考える。

委員⑨：戦略 2-1 においてオンライン化が記載されているが、郡上藩江戸蔵屋敷のオンライン配信など、すでにそのような体制もとられつつあるため、記載は問題ないと考ええる。

委員④：コロナ禍で二拠点居住や多拠点生活という言葉をよく聞くようになった。様々な生活スタイルが生まれてきている中で定住、移住だけでなく、多拠点居住等を見越した交流人口を増やすことも重要である。

委員①：郡上市はスポーツ施設が充実してきている。総合戦略のどれに当たるかは分からないが、郡上出身で市外に移住した人が、帰省等のタイミングで施設等を安く利用できるなどの特典をつくり、郡上へたくさん来てもらう仕組みをつくれると良いと思う。

委員⑦：コロナの影響を考慮した総合戦略になっていると感じた。また皆さんの意見を聞いて、小中学校の期間中にふるさと教育を充実させ、ふるさとに愛着を持てる教育を重点的に実施する必要があると感じた。

委員①：このほか意見もないようなので、今回出た意見をまとめていただきたい。

事務局②：皆さんの意見を聞かせていただいて、少し事務局側として補足させていただきたい。マイクロツーリズムは近場にあるものを楽しむという点と、自分の地域を再発見することも根本にある考え方である。広い郡上の中には、自分の地域外の知らない魅力がまだまだたくさんあり、他の地域の方に知っていただくことも重要であると考えており、同時に地域資源を磨き上げていく必要もある。

またワーケーションについては、郡上市の特性である豊かな水や山を活用し、源流域であることを前面に出して事業を進めている。令和 2 年度に都市部の企業に話を伺ったところ 10 社程度高い関心を持っているが、郡上に来ていただくには郡上ならではの特別なものが必要であり、それを開発していく必要もあると思われる。委員からのご指摘のとおり、戦略 1-1 の改定案において「地域資源を活かした」や「郡上の特性を活かした」という似たような書きぶりがあるので、そちらについて整理させていただきたい。

マイクロツーリズムにおいて、郡上を市民や市外の方にガイドできる方が必要であり、その人材を増やしていく取組みも必要と考える。市では人材育成の事業に

も取り組んでおり、大人から子供まで郡上のことを勉強し、市外へ発信していくことが重要であると考えている。

またワーケーションにおいても関係人口を発展させ、企業のサテライトオフィスの誘致にもつなげていきたいと考えている。多拠点居住という話も出たが、ICTがあるからこそできることであり、ワーケーションやサテライトオフィスにも繋がることであるため、そのような視点を持って取り組んでいきたい。

この総合戦略の位置づけというものは人口減少の抑制が根本にあり、さらにそれを克服することで地域の活性化を目指すものである。そのため障害者等の福祉の記載が少なくなっているが、福祉施策を軽んじているわけではなく、そちらについては総合計画の中でしっかり記載し、事業を進めていくこととしている。人口減少の抑制を中心にまとめたものが総合戦略としてご承知いただきたい。

事務局①：今後のスケジュールについて説明

5、閉会 兼山副会長

(終了 20時10分)